

第18回「サマーキャンプ」中学生の翼「帰国報告」

引率を終えて

団長(小野中学校校長)

根本 保男

参加生徒17人、引率職員3人で「2010サマーキャンプ」中学生の翼を実施してまいりました。昨年度は新型インフルエンザの影響から中止になってしまい、多くの生徒が残念がっていました。今年度は昨年度の分まで、団員一人ひとりの期待や思い、意気込みも大きかったように感じました。生徒たちは初めてのアメリカ渡航に向け、パスポートの大切さや申請手続き、空港での出入国手続、基本的な英会話などを事前に研修しました。そして、団員それぞれが自分で出入国手続を無事に済ませた。初めてのフライトとなりました。きっと、心に残るフライトとなったことと思います。



左からスラゴ議長、根本団長、カレン町長



ヒルトップキャンプ場にて

アメリカ滞在中に団員たちは、ホームステイをしながらグリーンロック町内研修、ニューヨーク市内研修、またヒルトップキャンプ場でのキャンプ研修などを実施してきました。アメリカ滞在中の活動や研修は、どれも貴重な体験でしたが、中でもホームステイは団員にとって忘れられない体験であり、大きな思い出となったようです。



自由の女神と一緒に



ホストファミリーと

小野町とグリーンロック町との交流事業は、今年で18回目となりました。私は、今回団長として参加させていただき、特にグリーンロック町の受け入れ体制は本当に素晴らしい、この18回目という積み重ねの大きさをしみじみ感じてきました。小野町の本事業は、町の中学生にとって大変有意義な事業であると実感しております。



ホストファミリーと

私は中学生の翼に参加してアメリカの生活を体験し、またホストファミリーと本当の家族のように過ごすことができました。ホームステイ中は、日本の文化の紹介として、書道、折り紙と一緒にやることができました。キャンプでは団員の仲間と、初めての土地で協力しながら生活し、乗馬や力ヌーなど不安な中でも楽しい貴重な体験をすることができました。

私はアメリカに行って、言葉や文化は違っても、人は通じ合えるという喜びを学びました。お世話になったホストファミリーの皆さん、引率してくださった方々、そして参加させてくれた家族に感謝します。ありがとうございました。

佐藤 佳子

小野中学校2年



ホストファミリーと(左)

西田 詩織

小野中学校2年

私は今回のサマーキャンプを通して、自分の世界を見る目が広くなったと思います。

ホームステイでは、英語が伝わりとすくすくうれしく、一生懸命相手に伝える気持ちが大切だということ学びました。家族と過ごす時間はとても楽しく、別れるときはさみしかったです。

キャンプでは、日本ではあまり経験できないことに挑戦しました。そして、日本とアメリカのキャンプのやり方が違うことが分かりました。

今回のサマーキャンプでは、楽しかったこと、つらかったことなど自分の一生に残る思い出がたくさんできました。今回の経験をこれからの自分に生かしていきたいです。